

大収蔵資料展

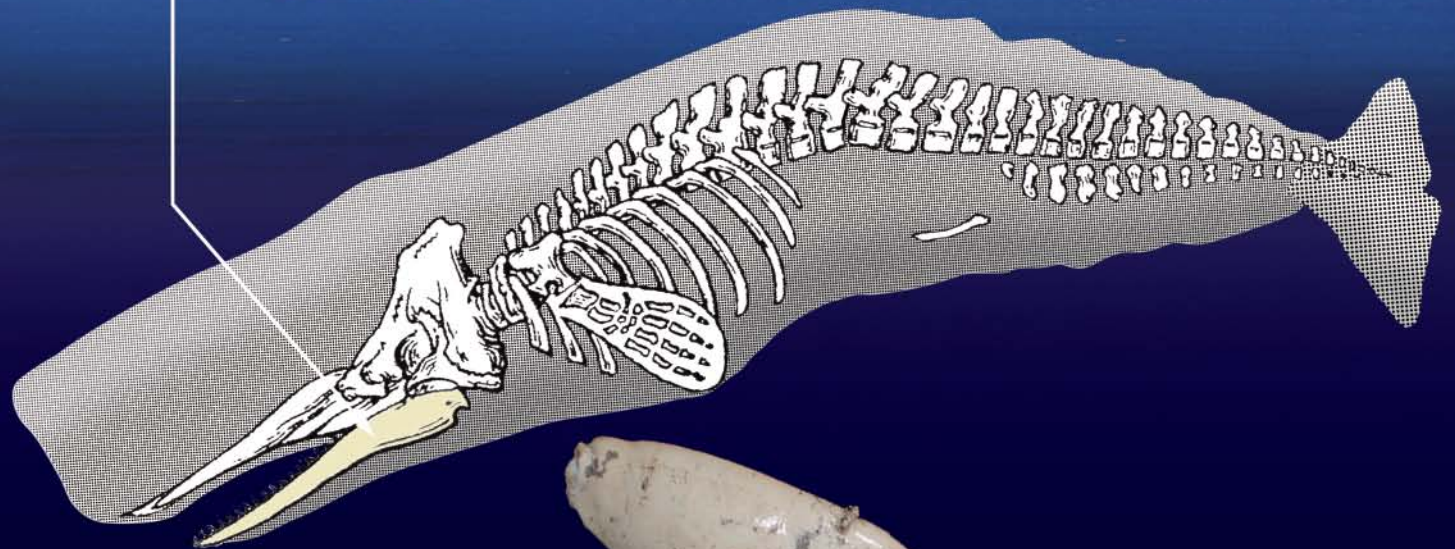
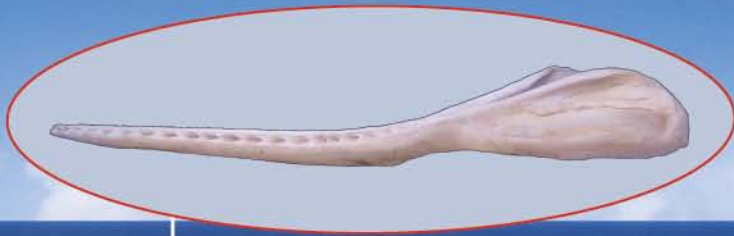
～大きなモノから小さなモノまで～

開催期間

平成21年

7月18日(土)

～9月27日(日)



マッコウクジラ

ダイオウイカ



■ 交通

JR外房線

鶴原駅から徒歩約15分
 勝浦駅からタクシーで約10分
 勝浦駅から小湊鉄道バス興津経由「松野」行き「吉尾入口」下車、徒歩約12分
 勝浦駅から小湊鉄道バス「海中公園・海の博物館」行き終点下車(土・日・祝日のみ)

自動車

千葉市からR16(市原)、R297(大多喜)、R128(勝浦)を使って約2時間
 東京湾アクアラインから圏央道、R410、R409、R297、R128を使って約1時間半
 館山市からR128(鴨川)を使って約1時間半
 銚子市からR126(東金)、R128(勝浦)を使って約3時間

■ ご利用の案内

開館時間

午前9時～午後4時30分

休館日

月曜日(祝日の場合はその翌日)
 *8月は月曜日も開館します。

入館料

| | |
|-----------------------------|------|
| 中学生以下 65才以上 障害者とその介護者 | 無料 |
| 高校生・大学生 | 100円 |
| 一般 | 200円 |

駐車場

午前8時30分～午後5時15分
 普通車2時間まで200円
 障害者とその介護者は無料

千葉県立中央博物館 分館

海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123

TEL 0470-76-1133

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/>

おかげさまで開館10周年を迎えました。

海の博物館は平成11年3月に開館し、おかげさまで10周年を迎えることができました。これまでに千葉県房総半島周辺をはじめ全国各地で海の生きものや自然に関する資料を収集し、その登録数は合計55,568点に達しました（平成21年3月末現在）。今年度の収蔵資料展では、当館がこれまでの活動で収集した様々な資料を紹介します。

海の博物館の収蔵資料

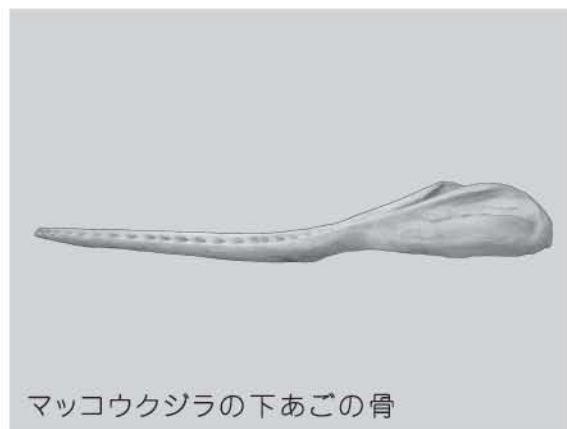
海の博物館の資料は、生きものを薬品に浸けて保存する液浸標本、乾燥させて保存する乾燥標本、電子情報化して保存する映像資料として、それぞれ専用の収蔵庫で保管されています。これらの資料は、当館研究員による資料収集活動や、地元の漁師さんなど多くの方々の協力によって得ることができました。



液浸収蔵庫の魚類標本

大きなモノ（大型標本）

今回の展示で最も大きな標本（モノ）は、マッコウクジラの下あごの骨です。これは、2003年に千葉県白浜町（現南房総市）に漂着した全長17.6mの個体の骨で、あごの部分だけでも4.9mあります。このほかに、ダイオウイカ（2.7m）やメカジキ（1.5m）など貴重な全身標本を公開します。



マッコウクジラの下あごの骨

小さなモノ（小型標本）

今回の展示で最も小さな標本は、ミジンワダチガイです。これは世界最小の貝で、貝殻の高さは成貝でも0.6mm位です（展示標本は0.49mm）。このほかに、学術論文を発表するのに用いた貴重な標本をはじめ、さまざまな無脊椎動物や海藻の標本を公開します。



ミジンワダチガイ

モノでないもの（動画と写真）

動物の行動や生息場所の様子などは、「モノ」である標本として残すことができません。そこで海の博物館では、これらの様子を撮影した動画や写真も一次資料として登録・保管しています。今回の展示では、房総半島周辺の海中景観や生きものたちの姿を動画と写真で紹介します。



卵（白い部分）を世話するアマミハギ